



テーマ: 世界を学ぶ、世界を生きる

東京外国語大学と読売新聞立川支局は2023年4月から、共催企画による全11回の連続市民講座を開催します。担当するのは、主に東京外国語大学の教員です。講座を通して、私たちが生きている諸世界を学びつつ、その世界を生きていくことの意味を考え直していきたいと考えています。世界各地の歴史や文化から流動的な国際情勢まで、専門家がわかりやすくレクチャーします。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

東京外国語大学・読売新聞立川支局 共催
東京外国語大学建学150周年記念

連続市民講座 世界を学ぶ、世界を生きる

参加者募集 (各回とも事前登録制)



お申込は
WEBから

会場: 東京外国語大学 アゴラ・グローバル
(東京都府中市朝日町3-11-1、西武多摩川線「多磨」駅 徒歩5分)

時間: 13:30~15:00 (4月15日は15:30終了)

4/15 舞踊公演付	林 佳世子 (東京外国語大学 学長) 世界を学ぶ、世界史を学ぶ 対談者: 小川 幸司 氏 (前・長野県蘇南高等学校校長)	11/18	荒原 邦博 (東京外国語大学 教授) 西岡 あかね (東京外国語大学 准教授) 女性作家が書く女性芸術家の肖像 —フランスとドイツ
5/13 展示会同時開催	風間 伸次郎 (東京外国語大学 教授) 山田 怜央 (東京外国語大学 非常勤講師) 世界の言葉に触れてみよう! —『28言語で読む「星の王子さま」』	12/9	吉田 ゆり子 (東京外国語大学 教授) 江戸を支えたバイオマス・エネルギー —薪炭の流通と徴税システム
6/3	星 泉 (東京外国語大学 教授) 犬から目線で楽しむチベット文学 —『ハバ犬を育てる話』を中心に	1/6 展示会同時開催	巽 由樹子 (東京外国語大学 准教授) ウクライナの装飾文様 —美術とナショナリズムの関係の今昔
6/17 写真展同時開催	後藤 絵美 (東京外国語大学 助教) イスラームのいま—写真に見るその多様な姿 対談者: 高橋 圭 氏 (東洋大学 助教)	2/17	山口 裕之 (東京外国語大学 教授) 橋本 雄一 (東京外国語大学 准教授) 地球の音楽—世界の姿を聴く旅へ
9/2	武内 進一 (東京外国語大学 教授) ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ	3/2	青山 弘之 (東京外国語大学 教授) 中東諸国で再生産される混乱 —「テロとの戦い」と シリア内戦がもたらす負のスパイラル 対談者: 高岡 豊 氏 (東京外国語大学 特別研究員)
10/14	西畑 香里 (東京外国語大学 講師) 職業としての通訳—通訳の世界		

- 初回4月15日は学生サークル「インドネシア舞踊部」「ベトナム舞踊同好会」による舞踊公演も予定しています。登壇者肩書き: 2023年4月1日現在 (予定含む)
- 5月13日、6月17日、1月6日の回は、会場入口付近にて、講演に関連した展示も予定しています。
- 各回とも講座に関連する書籍を、会場入口にて販売 (東京外国語大学出版会から刊行した書籍は15%割引) 予定です。ぜひご利用ください。
- 本連続市民講座に7回以上出席した参加者には最終回の3月2日に修了証を発行します。

[お問合せ] (平日9:00-17:00)
東京外国語大学 広報・社会連携課
TEL 042-330-5150

各回とも参加無料・事前登録制 (先着500名)
お申込は東京外国語大学WEBサイトから
<https://www.tufs.ac.jp/event/2023/yomiuri.html>



※参加をご希望の方は、左記の登録フォームより事前登録をお願いします。当日直接会場にお越しいただくことも可能ですが、定員を超える場合は、事前登録を済ませた方を優先します。

東京外国語大学は、2023年に建学150周年を迎えます。本学は、その150年の歴史を通じて、世界の言語とそれを基底とする文化、世界諸地域や国際的な問題について、研究と教育を行ってきました。

今回の連続市民講座「世界を学ぶ、世界を生きる」では、東京外国語大学出版会から刊行された書籍の内容を題材に、国境を越えた言語、文化、社会のリアリティに迫り、それぞれの専門家がわかりやすくレクチャーします。多様で知的な講義を、お楽しみいただければと思います。



林 佳世子

東京外国語大学長

林 佳世子(はやし かよこ)学長

専門は、西アジア史、オスマン朝史。著書に『オスマン帝国の時代』(山川出版社)、『興亡の世界史(10)オスマン帝国500年の平和』(講談社)。共編著に『イスラーム 書物の歴史』(名古屋大学出版会)、『岩波講座 世界歴史 13 西アジア・南アジアの帝国16~18世紀』(責任編集、岩波書店)、などがある。

小川 幸司(おがわ こうじ)氏

前・長野県蘇南高等学校校長。専門は世界史。東京大学文学部西洋史学科卒業。長野県各地の県立高校などに勤務し、文部科学省の新科目「歴史総合」立案に参画。2023年3月まで長野県蘇南高等学校校長。著書に『世界史との対話』全3巻(地歴社)、『岩波講座 世界歴史 01 世界史とは何か』(責任編集、岩波書店)、『歴史総合を学ぶ① 世界史の考え方』(共著、岩波新書)など多数。

風間 伸次郎(かざま しんじろう)教授

専門は言語類型論とアルタイ諸言語(特にツングース諸語)。著書に『日本語の類型』(三省堂、2022年)、『世界のなかの日本語 ④⑤』(小峰書店、2006年)、『第11章 アイヌ語はどの言語と似ているか 一対照文法の試みー』(『日本語「起源」論の歴史と展望』所収、三省堂、2020年)など。「ツングース諸語の言語と文化に関する一連の調査研究に対して」で第37回金田一京助博士記念賞受賞(2009年)。

山田 怜央(やまだ れお)氏

東京外国語大学非常勤講師。博士前期課程までフランス語及びイタリア語を研究。博士後期課程からアイルランド語の研究を始め、現在に至る。2020年3月東京外国語大学大学院同課程にて博士号(学術)を取得。2013年9月より1年間、フランス共和国パリ第三大学言語科学科に留学。

星 泉(ほし いずみ)教授

専門はチベット語研究、チベット文学の翻訳を通じたチベット文化研究。主な訳書にラシャムジャ『路上の陽光』(書肆侃侃房、2022年)、同『雪を待つ』(勉誠出版、2015年)、主な共訳書にタクブンジャ『ハバ犬を育てる話』(東京外国語大学出版会、2015年)、共編著書に『チベット牧畜文化辞典』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2020年)がある。

後藤 絵美(ごとう えみ)助教

専門は近現代イスラーム研究、ジェンダー。イスラームに対する人々の理解や実践の多様性と変化に関心をもつ。著書に『神のためにまどうヴェール——現代エジプトの女性とイスラーム』(中央公論新社、2014年)、『イスラームってなに? イスラームのおしえ』(かもがわ出版、2017年)、共編著に『宗教と風紀: 聖なる規範』から読み解く現代』(岩波書店、2021年)など。

高橋 圭(たかはし けい)氏

東洋大学助教。専門は近現代スーフィズム(イスラーム神秘主義)研究。エジプトのスーフィー教団の歴史を専門とするほか、近年はアメリカのイスラームとスーフィズムに焦点を当てて研究を行っている。主な著作に『スーフィー教団——民衆イスラームの伝統と再生』(山川出版社、2014)、『多様なムスリムが触れ合う場——米国におけるスーフィー系サードプレイスの形成と変容』、『宗教研究』96(2)、2022年)など。

武内 進一(たけうち しんいち)教授

専門はアフリカ研究、国際関係論。中部アフリカ仏語圏諸国を中心に、現代アフリカ政治、特に武力紛争や土地所有について研究してきた。著書に『現代アフリカの紛争と国家—ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』(明石書店、2009年)、『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ アメリカからグローバル世界へ』(中山智香子との共編著。東京外国語大学出版会、2022年)などがある。

西畑 香里(にしはた かおり)講師

専門は通訳教育。海外営業職、複数企業での社内通訳・翻訳者、さらにフリーランス日英会議通訳者としての実務経験を経て現職。主に大学・大学院における通訳教育の研究をしている。著書『通訳の世界』(東京外国語大学出版会)を2023年刊行予定。

多摩地域の大学と読売新聞による連続市民講座は今回で16回目を迎えます。コロナ禍による中断を余儀なくされましたが、読者の皆様の強い要望もあり、4年ぶりに開催の運びとなりました。東京外国語大学で開催されるのは2015年以来3回目となります。今回のテーマは「世界を学ぶ、世界を生きる」。一流講師陣による講座は、記者が書く新聞記事とは違った切り口で、世界の広さ、多様性を伝えてくれることでしょ



深山 真治

読売新聞 立川支局長

荒原 邦博(あらはらくにひろ)教授

専門は近現代フランス文学、美術批評研究。著書に『ブルースト、美術批評と横断線』(左右社、2013年)、共著に『ジュール・ヴェルヌとフィクションの冒険者たち』(水声社、2021年)、『アンドレ・マルローと現代』(上智大学出版、2021年)、訳書にヴェルヌ『ハテラス船長の航海と冒険』(インスクリプト、2021年)、ミシェル・ビュートル『レペルトワールI・II・III』(共訳、幻戯書房、2021-2023年)など。

西岡 あかね(にしおか あかね)准教授

専門はドイツ文学、比較文学。ドイツ表現主義の文学、特に抒情詩を中心に研究している。著書にDie Suche nach dem wirklichen Menschen (Königshausen & Neumann, 2006)、共著にÄsthetik - Religion - Säkularisierung II (Wilhelm Fink, 2009)、Flucht und Rettung (Metropol, 2011)、Kulturkontakte (Transkript, 2015)、『男性性を可視化する』(青弓社、2020年)など。

吉田 ゆり子(よしだ ゆりこ)教授

専門は日本近世史。地域に残された古文書の調査研究から、普通の人々の日常の暮らしやものの考え方を明らかにし、日本の歴史を見直そうとしている。編著に『湊十分所史料集』(東京外国語大学出版会、2020年)、『画像史料論—世界史の読み方』(同、2014年)、著書に『兵と農の分離』(山川出版社、2008年)、『近世の家と女性』(山川出版社、2016年)など。

巽 由樹子(たつみ ゆきこ)准教授

専門はロシア文化史研究。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了(博士〔文学〕)。主著に『ツァーリと大衆: 近代ロシアの読書の社会史』(東大出版会、2019)。共訳にO. ファイジズ『ナターシャの踊り: ロシア文化史』(白水社、2021)、L. マクレイノルズ『〈遊ぶ〉ロシア: 帝政末期の余暇と商業文化』(法政大学出版局、2014)。

山口 裕之(やまぐち ひろゆき)教授

専門はドイツ文学・思想、表象文化論、翻訳論。著書『映画を見る歴史の天使』(岩波書店、2020年)、『現代メディア哲学』(講談社、2022年)他、翻訳に『ベンヤミン・アンソロジー』(河出文庫、2011年)、『1913 20世紀の夏の季節』(河出書房新社、2014年)、『ベンヤミン メディア・芸術論集』(河出文庫、2021年)他、編著に『地球の音楽』(東京外国語大学出版会、2022年)他。

橋本 雄一(はしもと ゆういち)准教授

専門は中国近現代文学。その中でも特に植民地と中国語社会文化という問題にアプローチ。「文学 ～時間を往来して自由に旅してみたい～」(『ようこそ中華世界へ』昭和堂、2022年)、編著『地球の音楽』(東京外国語大学出版会、2022年)、「清志郎、原発、お月さま」(『国際日本研究への誘い 日本をたどりなおす29の方法』東京外国語大学出版会、2022年)、共著『満洲国の文化—中国東北の一つの時代』(せらび書房、2005年)他。

青山 弘之(あおやま ひろゆき)教授

専門は現代東アラブ政治、思想、歴史。ダマスカス・フランス・アラブ研究所(現フランス中東研究所)共同研究員、JETROアジア経済研究所研究員などを経て現職。「シリア情勢」(岩波書店、2017年)、『膠着するシリア』(東京外国語大学出版会、2021年)、『ロシアとシリア』(岩波書店、2022年)などがある。ウェブサイト「シリア・アラブの春頌末記」(<http://syriaarabspring.info/>)を運営。

高岡 豊(たかおか ゆたか)氏

東京外国語大学総合国際学研究院特別研究員。公益財団法人中東調査会主席研究員(2018年-20年)。著書に『現代シリアの部族と政治・社会: ユーフラテス河沿岸地域・ジャジーラ地域の部族の政治・社会的役割分析』(三元社)、『「イスラーム国」がわかる45のキーワード』(明石書店)、『「テロとの戦い」との闘い: あるいはイスラーム過激派の変貌』(東京外国語大学出版会)など。